

は じ め に

鳥取県衛生環境研究所は「危機管理対応」、「環境の保全・再生と活用に資する調査研究の実施」、「住民・NPOの環境学習・環境活動の支援」及び「試験検査の信頼性確保と精度の向上」をミッション（使命）に掲げ、県民の安全と豊かな環境の確保に向けて業務に取り組んでいます。

当研究所では、これまで新型コロナウイルス感染症に対し、職員一丸となって対応してきましたが、令和5年5月に感染症法上の位置付けが2類相当から5類へと変わり、これに伴う検査体制の見直しから、当所で感染判定のためのPCR検査を行うことはほぼ無くなりました。現在、新たな感染症発生によるパンデミックに備え、鳥取県感染症対策センター（鳥取県版CDC）の一員として、検査体制や情報分析能力の強化を進めると同時に、県内の医院等の協力を得て、ウイルスの変異状況などの調査と感染情報の提供を続けているところです。

島根原子力発電所等に係る防災対応では、平常時から空間放射線量率等の監視や環境試料中の放射性物質等のモニタリングを実施するとともに、緊急時には鳥取県モニタリング本部及び国の緊急時モニタリングセンター（EMC）の測定分析担当として、環境放射線モニタリングを一元的かつ総合的に実施することとしており、定期的に訓練や研修を行い、知識や技術、対応力の維持向上に努めています。特に令和4年度からは、原子力防災先進県である福井県よりモニタリングに精通した技術職員を招聘し助言を受けるなど、技能の向上と体制の強化にも力を入れています。

さらに試験検査の信頼性確保と品質管理については、食品衛生検査では食品衛生法に基づく業務管理（食品GLP：Good Laboratory Practice）を運用するとともに、平成18年（2006年）から4項目の試験について国際規格ISO17025に基づく認定を受けて維持・運用しています。また、他の試験検査や測定についてもこれらの考え方や品質管理方法等を取り入れ、標準作業書を整備するなど信頼性の高い試験検査の実施に努めています。

一方、調査研究では、廃棄物処理や土壌汚染現場での調査などにおける迅速試験法の開発や、県内の代表的な湖沼・汽水湖である湖山池・東郷池の海水遡上による流動や水質形成過程の解明、更に両湖で衰退した水生生物の再生のほか、気候変動による水資源への影響調査や、PM2.5、オキシダント等の広域大気汚染物質の由来の解明といった課題に取り組んでいます。

また、コロナ渦で少なかった施設見学の依頼や環境学習への参加も社会活動の回復とともに次第に増えてきており、以前のように大勢の方々に参加いただけることを心から願うところです。

本年報は、令和4年度に当研究所が実施した試験検査、調査研究業務等を取りまとめたものです。関係各位の御協力に感謝いたしますとともに、御一読いただき、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

今後とも、県民の方々のニーズを的確に把握し、常に前向きに課題に取り組み、使命に応えられる衛生環境研究所及び原子力環境センターとなるよう、一層努力していきたいと考えておりますので、御指導、御協力をよろしくお願い申し上げます。

令和6年 3月

鳥取県生活環境部衛生環境研究所
所長 池山 恒平